

チャノキイロアザミウマ情報第1号

令和3年4月23日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

ブドウ、カキの防除適期は5月9日から17日と予測します。
発生状況に注意し、防除しましょう。

1 発生ピークの予測

有効積算温度を利用したチャノキイロアザミウマ第1世代成虫の発生ピーク予測日は、中山間部に位置する稲武を除いて5月9日から17日です（表1）。

前年と比較して2月以降の気温が高く推移しているため、今年のチャノキイロアザミウマ第1世代成虫の発生ピークは、前年と比べ5日から9日早いと予測します。

表1 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日（4月23日計算時点）

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎
第1世代	5/17	5/15	5/10	5/11	5/15	5/15
（前年）	5/23	5/20	5/18	5/18	5/21	5/22
前年差	6日早	5日早	8日早	7日早	6日早	7日早
第2世代	6/14	6/15	6/9	6/6	6/15	6/14

	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第1世代	5/9	5/12	5/16	5/12	6/12
（前年）	5/18	5/19	5/22	5/19	6/9
前年差	9日早	7日早	6日早	7日早	3日遅
第2世代	6/9	6/9	6/15	6/12	7/11

各地のアメダス平均気温から予測。

4月22日までは実測値を、それ以降は平年値（大府、豊橋は前年値（2020年））を用いて計算。
前年の第1世代は、前年気温の実測値を用いて計算。

なお、向こう1ヶ月の気温はほぼ平年並の見込みですが、平年に比べ日平均気温が1℃高く推移した場合は、発生ピークは現時点の予測日より1日から5日早まる可能性があります。

4月30日発表予定の「令和3年度病害虫発生予報第2号（5月）」に、最新の気温データを基にした発生ピーク予測日を掲載しますので、参考にしてください。 (<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>)

2 防除

ブドウでは、例年5月上旬頃から成虫の飛来があり（図）、カキでは、開花期頃から成虫の飛来が多くなります。

チャノキイロアザミウマの防除では、成虫発生ピーク時の農薬散布が最も防除効果が高いとされています。例年発生の多いほ場では、表1の第1世代成虫の発生ピーク時期を参考に表2の薬剤などで適期に防除しましょう。

また、防風用に植えているイヌマキやサンゴジュなどは、本種の発生源になりますので、これらの発生状況にも注意しましょう。

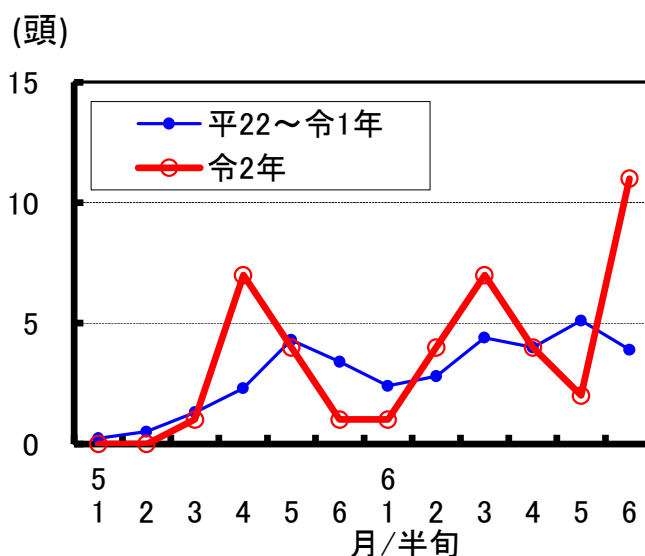


図 東浦町（ブドウ）の黄色粘着板におけるチャノキイロアザミウマの誘殺状況
（平成22～令和1年の平年値及び令和2年のデータ）

表2 チャノキイロアザミウマの主な防除薬剤

作物	薬剤名	成分	使用時期	本剤の使用回数	IRACコード
ブドウ	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド	収穫14日前まで	3回以内	4A
	コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン	収穫前日まで	3回以内	9B
カキ	パダンSG水溶剤	カルタップ	収穫45日前まで	4回以内	14
	コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン	収穫前日まで	3回以内	9B

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/lab/pdf/2020/mechanism_irac02.pdf を参照する。

薬剤散布の際は、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。